

上毛新聞から取材を受けました

2023年6月28日(日)の上毛新聞に「見守りカメラ」についての記事が掲載されました。

[見守りカメラで離れていても安否確認《スマート家電で暮らし便利に・中》 《生活情報ページ JOMOtto \(じょもっと\)》 | 上毛新聞社のニュースサイト \(jomo-news.co.jp\)](http://www.jomo-news.co.jp)

例えば、象印マホービン通信機能を持った電気ポット「i-pot」。ポットを使うと、使用情報が本体の通信機器から離れて暮らす家族にメールで通知される仕組み。このサポートシステムは101年3月から始まり、累計利用は1万3000件。同社の広報担当は「プライバシーに踏み込むことなく、さりげないコミュニケーションを図れるため、好評をいただいている」と説明する。

他メーカーでも、冷蔵庫のドアの開閉や、電球の点灯によってスマホに通知されるなど、見守りサービス付きの製品がある。

福祉の業務改善にも

社会福祉法人正覚会が運営する高崎市下小鳥町の特別養護老人ホ

ーム「ことりのはな」や「ことりの郷」では、入居者の病床を見守るシステムを導入している。

人の動きを感知し、スマホやタブレットに知らせる見守りシステムだ。赤外線カメラがベッド上で起床や離床などの動きを検知すると通知が届く。異常な動きと判断すると、瞬時に介護士へと知らせることができるため、転倒転落事故を防げる。

導入したことで、利用者のけがなどを事前に防ぐことはもちろん、別の効果もあるという。佐藤毅然施設長は「業界全体として、介護離職が深刻な問題。製品を取り入れたことで、職員が安心して勤められ、業務改善にもつながっている」と話している。

(丸山朱理)

高齢者を見守るシステムは県内自治体でも採用されている。緊急通報装置や人体感知センサーを自宅に設置するなど、お年寄りの孤立や孤独死を回避する狙いだ。

高崎市が2012年から取り組むのは「高齢者等あんしん見守りシステム」。市は高齢者世帯に機器を無料で貸し出す。通報装置とセンサーが通報や異常を感知し、委託する見守りセンターで受け付けると、消防をはじめ緊急連絡先に登録した家族や近隣住民に連絡する仕組み。24時



利用者のけがを防ぎ、介護の質を高める見守りシステム



利用者の動きを画像や音で知らせる



カメラの映像がネットを通じてスマホやPCで見られる

孤独死回避へ自治体も活用

間365日体制で見守っている。

現在は約4700台設置されている。センサーによって人名救出に至ったケースは事業開始から177件あった。市介護保険課の担当者は「この事業は孤独死ゼロを掲げた取り組み。命が助かったケースも多くある」と実感を込める。

こういった緊急通報装置と人感センサーを設置する取り組みは、沼田市、藤岡市、安中市などでも導入されている。